



逢見の

R18 Adult only

逢 ひ の 見 て の



＊はじめに＊

このお話は【花吐き病】を基にしたものです。

本来であれば両思いになった際に

「白銀の百合を吐き出して」完治となりますが、


弊作品におきましては

「咳が出なくなるなどの体調が改善する」ことで完治とすることにしました。


感染方法については変わりなく、

「花に触れて感染」するものとします。






それは何事もなく
終わるはずのことだった

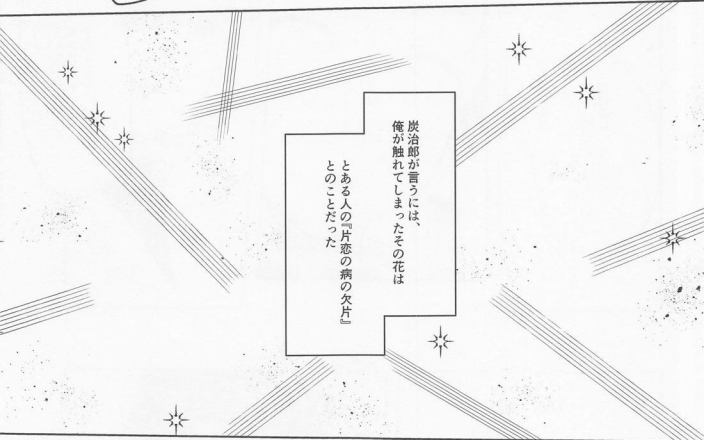


その花は
俺にとっては
なんでもなく
これで終わる話の
はずだった




……え？
なに、これまじいやつなの？

いや、善逸になら
無害だと思っから
安心していいぞ



炭治郎が言うには、
俺が触れてしまったその花は

とある人の『片恋の病の欠片』
とのことだった



善逸は相思相愛だろう？

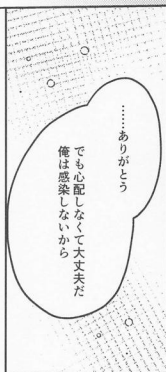
なっ……

一方的な想いを拗らせない限り
平気なんだぞうだ

たんじろっさん！！
！！！！

三信報

この病の名を
『花吐き病』というらしい



炭治郎の『大丈夫』の意味は
結局、聞けずじまいだった



聞かれないことには
聞かれないだろうことは
表情よりも音でわかったから、
聞かないことにした

二人共が大丈夫なら
それでいい
何の問題もない

そう、
思っていた

なのに

ガッ

ガッ

……なん、で？

なんで、
どうして、俺

ガッ

ガッ

ガッ

花、なんて……

ガッ

ガッガッの……

ガッ



これ……

炭治郎の言っていた
病だよ、ね……？

そんなはずはない、
そんなわけではない

だって、俺には
宇髄さんがいるんだから

でも、それなら

この花は、なんなの？

片恋を
患ったときじゃないと

吐かないんじゃないの……？

わかんない……

宇髓さんのことを

俺のことを好きだと、
愛してると言ってくれた言葉を
信じてるし、信じたい

宇髓さん……
わかんないよ……

でも、
花を吐いた


それって、つまり

俺の、
かた、おもいって、
こと、なの？

宇髓さん……

宇髓さん……ッ

宇
髓
さ
ん




俺……ちゃんと、
好かれてるよね？
愛されてるよね？

ねえ、宇髄さん……




こわいよ、
宇髄さん……


もし。もしも、
実は本当に俺の片恋だったなら
どうすればいいんだろうか




そんなわけはない、
怖いなら聞いてしまえばいい



そうは思うが
いざ聞こうとするとやはり怖く



言いかけては口を噤む、
それだけを意味もなく繰り返し



気がつけば、
病はどんどん進行していた

そんなある日の
ことだった

よう、善逸
ちよっといいか？

ひひひひ

う、宇髄さん!!
どうしたんですか急に

ん?
なんか用事でもあったか？

い、いえ
大丈夫です、けど

ん



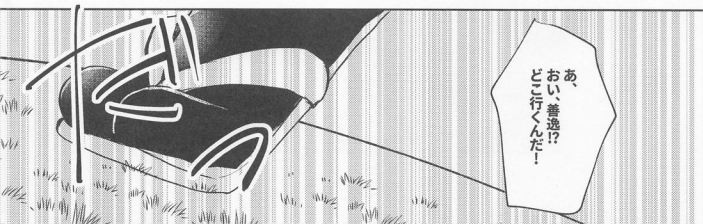
何かあったなら
言えよ?

お前、この前から
ちよつと変じやねえか?

……なあ、善逸



宇髄さんは本当に
俺のことを好きなんですか？



あ、善逸!?
どこ行くんだ!



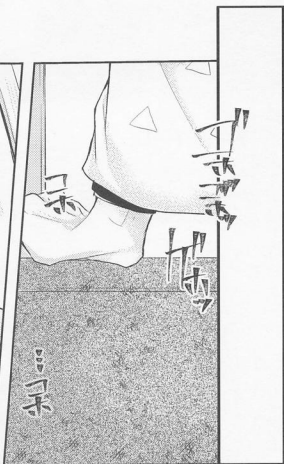
それとも、また、地味に
なにか一人で抱え込んでやがるのか



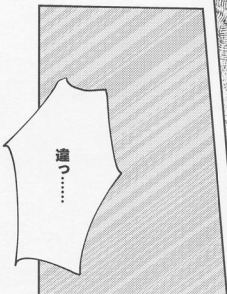
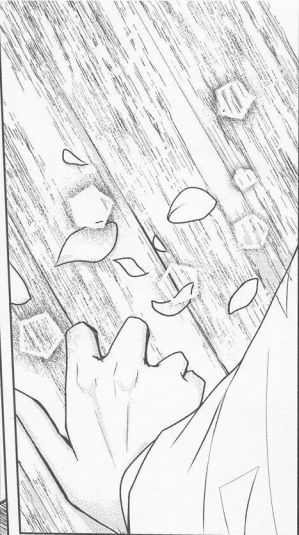
あいつ、どこか
臭合が悪いのか……？



よりにもよって、
宇髄さんのいるときに吐くなんて……
目の前で吐かなくてよかったけど







ぜん、いつ
お前、その花、まさか



マズった
ああ、まずい
早く、なんか言わなきゃ

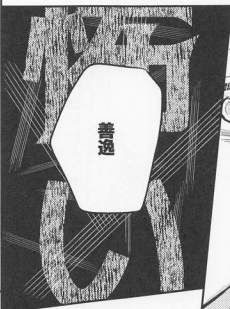
あ……
いやその……

何が違うって？
それ、『花吐き病』だろ？



宇随さん……？

ひどい音がしてる
怖い、怖い、怖い

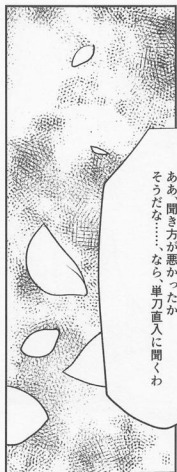




は？
え何、言って……？



三〇



ああ、聞き方が悪かったか
そうだな……、なら、単刀直入に聞くわ



誰に



片恋を拗らせて
花なんて吐いてんだ？

お前が
誰のものかってことをな

て、
ま、あ

ま、
あ、り

ま、あ

う、あ

ね、や
宇髓、さッ

ま、あ

も、許、して
ン、ああ、ねえ、やだッ

ま、あ

ア、ア

ね、ホント、やめ

もう、辛いからあッ……

じゃあ、誰に片恋してんのか
白状するか？

だからっ、
そんなのッ

あッッッ

『いない』ってまだ言い張るか。
なかなか強情だな

あんなに花を吐いておいて


違う、あの花は、違うのに——

ヒクッ

ひ


あ

ザク



言いたくねえってんなら
聞かねえけど

誰であろうと

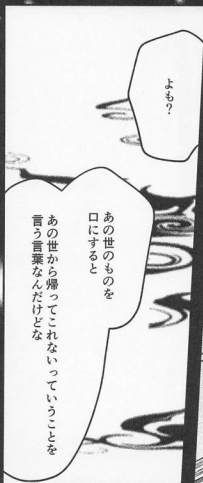


どれだけお前が
そいつのことを想っていたらと



お前を

手放したりはしねえ
逃したりもしねえ



は、え
一体、何言って

なに、なんなの

善逸
ほら、いい子だから

まずは上のお口で
飲んでみようか？

ああ、もちろん
最初っから
下のお口でもいいけどナ

ね、宇髄さん……

ほんと、ちが、うの
あれはッ、あの、花はッ

……じゃあまず

上のお口でいいか

ひッ





わかってるな？
噛むなよ



ひっ

あ、やっま……



ちゃんとしっかり
啜えてろ

んっうっ



上手上手
いい子だ 善逸



そうそう



……なあ、
その顔でソイツのことも
もう誘ったのか？

ふあっ?!

アハハハ

アハハハ



ッ、ん
ふ、うッ!

アハハハ

アハハハ

アハハハ

ッ、
出すぞ、こぼすなよ

アハハハ

う、は

アハハハ

アハハハ

ハッ、
零すなっつたけど
全部、飲んだのかよ

だ、だって……

零すなっつて、いわれたのも
あった、けど、でも

宇髄さんのこと
大好きだから……

……は？
俺が好きだ？

宇髄さんのこと
考えてたら、

なんで、俺のことなんて
好きに、なってくれたのかなって

善逸

それで、
たまたま、花に触ったら

俺も、吐くように
なってる……..
怖くて、でも聞け、なくて

んも

宇髄さんのこと
好きなのは本当でッ
嫌われても好きで

だから、今も、花は、吐いてなくてッ

なのに、宇髄さん、
全然、話聞いて、くれなくて



……悪い

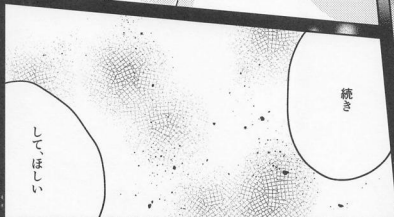
わっ、えっ!?

う、宇髄さん?



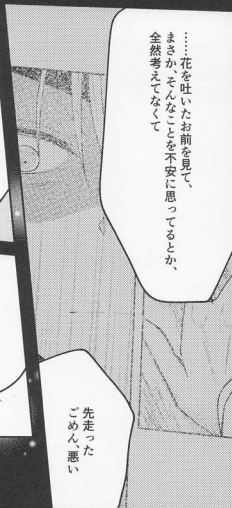
わかったから
だから……

いいです、
もう、いいんです




して、ほしい

続き



……花を吐いたお前を見て、
まさか、そんなことを不安に思ってるとか、
全然考えてなくて

先走った
ごめん、悪い



気持ちよくして、
ほし……いん……す……



さすがに、も、
辛い、から……



……わかった



ちゃんと優しく抱く



あー、もう

優しくしようと
思ったのになア?

同、まあ

同

お願いだからっ、
もう、挿れて……ッ

あッ

あッ

もう、大丈夫だから



奥までゼーンぶ入って
気持ちいいな? 善逸

奥に、入ってッ

あッあッ

は、あ、
入ってくるッ
あッ

ひまにあッ

あッあッ

あッ

あッ

あッ

ひっ、あっ、
気持ちいい、いっ

……なあ、善逸

善逸

好きだ
心から、愛している

あ

大好きだ
どこにもいくな

ん

あ

はま

あっ、俺もっ
俺も、俺もっ

あ

あ

俺も、好き
大好きっ、大好きだからっ

ずっと、そばに
いさせてっ

ん、
いい子いい子

いい子にはご褒美を
あげないとな？

派手に
気持ち良くなろうか

あ、あ、あ、
奥に、奥にっ

うんうん
気持ちいいな

俺もすごい気持ちいい
善逸の中、あったかくて



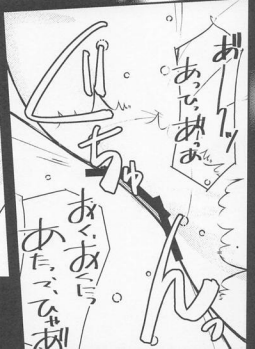
はは、
善逆のナカ、すげえうねってて
派手に気持ちいいわ

ずっと
「出ていかないで」って
言ってるみたいだな？

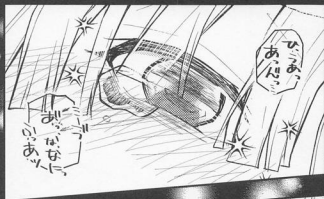
ひゃああ、
あぐあぐ、
あぐあぐ



ああああッ
あつ、あつ



あぐあぐ
あぐあぐ
あぐあぐ



善逸



俺ので気持ち良くて
イッてる善逸が見たい

一緒にイこう



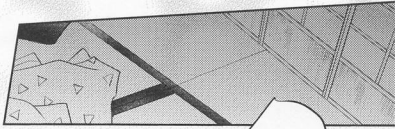
そんな、され……ッ
イツチャ、アアッ

あ、や、
深ッ



あーあ、アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



……ん

善逸？
目え覚ましたか

身体は
大丈夫か？

んん、
大丈夫……

ホッ
そうか、良かった
もう少し寝ていいぞ

うん



あの、
今回の、コレって
つまり……
あれです、よね？



……ね、
宇髄さん
ちよっと、
聞いても、いい？



ん？



宇髄さんが

嫉妬した、ってことで
いいんですよ、ね？



ズルいわあ……

ザッ

あ——もう！

わっ!?
なにに? 何なの!?

イラッ

?

えっ

はいはいはい!

そうですよお、どうせ地味に
嫉妬に狂いましたよ、
姿見えぬ相手にな!

キヤムキヤム

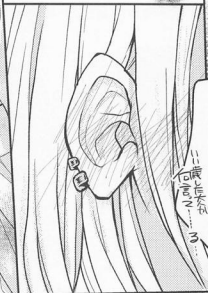
おまじ

他のヤツに
持っていかれたくなかったんだよ

何だ何だ何だ

かっし

アッアッアッ



フンッて
あんだ……

「戻す木が」

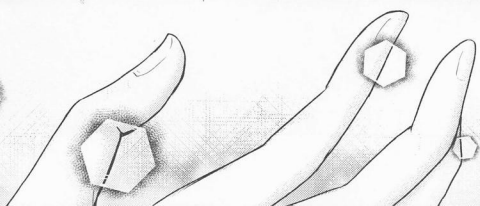


宇随さん

シ。

アあッ

「戻す木が」






.....善逸？

俺、嬉しかったんですよ

こんなに好かれてるんだって、そう思えて

そりゃ、ちょっとはびつくりもしましたがど


ギョ




こうやって
嫉妬してもらえるほど
好かれてるんだって

こんなこと思うのは
おかしいことだって

それはわかかってるんです
だけど、そうなんです、けど




うれしかったんです



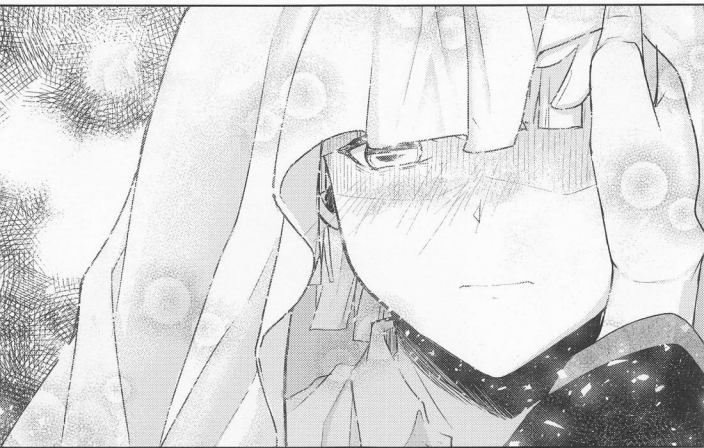
そうだった。
こいつは自分に自信はなく、
努力家だが本人にその自覚のないクセに


いざって時の思い切りの良さと
戦局を見通す力があって



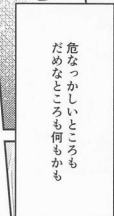
その本質は人の
家族の愛に飢えた

好きも愛も欲しがらなくせに
いざ与えられると、それを信じられない
そんなヤツだった







そんな、
ちよつと抜けてるところも



危なっかしいところも
だめなところも何もかも



何もかもをひっくりかえして
俺は愛して……



ずっとそばで
見守らせてくれ



だから





ワタシ
冗談です





この度は、お手にとつてくださりありがとうございます。

今回も『全く学習してない、(ちよつとおバカな)善逸くん』を登場させてしまいましたが、このくらいおバカなことをやらしたのち、宇髄さんにキレ散らかされて色んな事されてしまうのもいいなと……。そして、宇髄さん＝神＝神気取り込んだら宇髄さんのそばを離れられない善逸くんの完成!？ヨモツヘガイ(広義)もすれば更に完璧! とはつちかけた結果、こうなりました。毎度のことながら、善逸に執着する宇髄さんが好きなので……はい、仕方がないですわ! て、てもきつとこれで愛を確かめあつた二人はきつと幸せになると思います。あめでどう!

炭治郎の花吐き病に感染しない理由は、「永遠に叶えられることのない恋心を持っている」からでした。冥婚をアリにしてしまうと、取拾がつかないため、そういうことになっておいてください。

★この本は個人的に作られた非公式ファンブックです。

この本は同好者の間だけで楽しむために作られた二次創作の同人誌です。

原作者様・出版社様とは一切関係ありません。

取り扱いについて

無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)は禁止です。

二次創作をご存じない一般の方や、関係者様の目に触れぬようご配慮をお願いします。

公共の場での閲覧はご遠慮ください。転売は禁止です。

ネットオークション、フリマアプリでの転売はご遠慮ください。

処分する際は同人誌専門の中古書店に売却していただくか、

中身が分からない状態にしていただいた上で可燃ゴミとして廃棄してください。

◆発行日：2月28日

◆サークル：アプセットネデブ(いちか)

◆発行責任者連絡先：hanaserebu.new@gmail.com

◆印刷会社名：大陽出版(株)



←マシュマロはこちら
よろしければ感想など頂けると
中の方が元気になるます



